

課題

【小・算数】図形の意味や性質について理解することが苦手

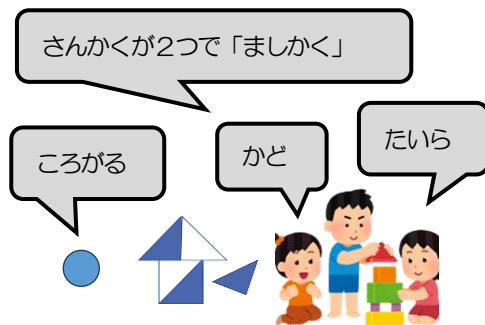
手立て

観察や構成などの活動を通して図形の意味や性質について考察させる

具体例

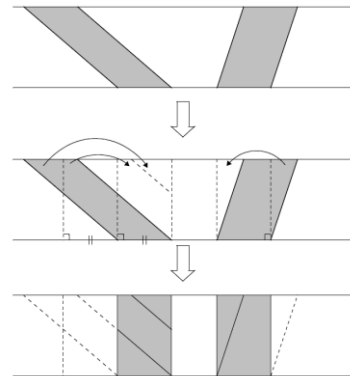
POINT① 図形理解の基礎となる経験を豊かにするための操作活動の充実

- 低学年の頃から形遊びをしたり、紙を折ったりする活動を十分に確保する。
- 「ころがる」「積める」など、低学年のうちから機能的な側面に触れさせる。
- 操作活動から生まれる子どもたちの気付きやつぶやきを大切にする。



POINT② 図形の性質を活用する場面の設定

- 図形を構成する要素に着目させ、既習事項をもとに面積や体積の求め方を考えさせたり、理由を説明させたりする。
- 図形の面積を求めるにはどの部分の長さが必要か判断する活動や等積変形で面積を比較する活動などを取り入れる。
- 図形を構成する要素や位置関係に着目させて、図形を分別させる活動を大切にする。



POINT③ 日常生活の場面との関連を図る活動

- 縮図や拡大図の考えを活用して、木の高さや校舎、池など身近な場所の測量をさせる。
- 教室や体育館などで、図形を探したり見つけたりすることで、図形の感覚を豊かにさせる。
- 図形の性質を生かして敷き詰め模様などのデザインを経験させる。

日常生活でも図形が役に立っている場面がたくさんありそうだ



円の性質を用いてコマを作ったよ